



年少だより

ほほえみ



担任 中村 孝枝

今年は台風が多く雨の日が続きますね。長雨にうんざりしているのは大人だけではありません。雨が降っているのを見ながら「早く外で遊ぼうよ!」という声が聞かれます。先日、小雨の時に簡易ポンチョを着て戸外で遊びました。初めての体験です。雨の中水たまりに入ったり、空を眺めてシャワーを浴びているかのようにしたりとなんだか楽しそう。雨が降ったら遊べないという大人の概念を捨てて、雨だからこそ楽しめることを子どもたちと発見していきたいなと感じました。



9月の保育より

けんかで学ぶ

つばめのけんかのほとんどは誰かが持っているものを欲しがることから始まります。同じものが傍にあったとしても納得いきません。今、友達が使っているその物が欲しいのです。私の通し合いはとにかくすごいです。最近近くで遊んでいる子が仲裁に入ったり「ねえ、このゲーム入る?」と気を引いてくれたりするようになり、まわりの子の気持ちも育ってきていますが、けんかは全く収まりません。最終的には大人が思いを受け止めて収まります。気持ちが収まれば、大げんかした相手にとっても優しくなり激しいけんかの後とは思えないほどです。けんかをしてもしも仲直りの後楽しく遊べる場所は、子どもの良いところですね。



船の遊びから他の遊びへ

遊覧船に乗った翌週、保育室に大型積み木で船を作っておきました。いつもと違う環境に子どもたちは大喜び。「海にしたい」と言い、魚、カモメやかっぱえびせんを作っていました。「空は青空がいい」というので天井に水色のビニール袋を張りました。その後栈橋の白い手すりを作っている子もいました。ライフジャケットも欲しいと次々に欲しいものが浮かびます。子どもの提案で「ふね、よろしければのりますか?」の手紙をはと組とひばり組に配ったので異年齢児も遊びに来てくれ、大満足のつばめ組でした。

つばめ組の遊びはどんどん移り変わります。翌日ひとしきり遊ぶと自分達で積み木を並び替えてアスレチックに大変身。落ちないように気をつけながらぐるぐると回って楽しんでいました。「ここは難しいから気を付けて」「次はこうしよう」会話も弾みます。「ここへきて戦おう」「あと1回回ったら結果発表やるよ。誰が落ちたか落ちてないかだよ」面白い会話が続きます。自分達でルールを作って、半分夢の世界に入り込みながら場を共有して、遊びが展開されています。なんて素敵でしょう。次はどんな遊びになっていくのか楽しみです。

10月のねらい

○友達と一緒に簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを知る。

○身近な秋の自然にふれて親しむ。

10月の保育において

遊びを通して「自分で」という気持ちを育む

体を動かして遊ぶことが心地よい時期です。体を動かして遊ぶ楽しさが十分味わえるようにしていきたいと思っています。

身の回りの自然物や事象、いろいろな材料に興味を持ち、かかわったり試したりする中で、一人一人が自分のイメージを表現する楽しさを味わえるようにしていきたいと思っています。つばめ組は粘土や絵の具で絵を描くなど表現することも大好きなので十分楽しめるよう環境を整えていきます。

挑戦してみよう!

このところ、すべり台のコイルや雲梯の上を歩く姿が見られます。友達のやっていることに興味を持ち『やってみたい』という気持ちが挑戦する力に変わってきています。



思いやりの心を育む

友だちとの関わりを通して少しずつ思いやりの心が芽生えています。

思いやりは、人との関わりの中で育まれます。思いやりの心が育つために欠かせないのは、「体験」と「環境」というふたつの要素です。では、どのような体験が必要なのでしょう?それは、自分の願いや思いが受け入れられたり、人から温かな思いやりをかけられたりすることで、「うれしい」と感じる体験です。そして思いやりの心を育てる環境とは、人が誰かを思いやる場面がたくさんふれることができる環境、あるいは、子どもが人を思いやる心や行動を学ぶための「モデル」となる人が近くにいる環境です。人から「どうしたの?」「大丈夫?」と優しく声をかけられたり、思いやりのある人に囲まれ、たくさんの思いやりと愛情をうけて育ったりすることで、思いやりの心は育まれていきますね。

まず、周りにいる私達大人が心穏やかにいられるよう自己肯定感を高めていきたいですね。

